

# じっくり心をこめて

## スロー フード

81



### にいがた地鶏のささみのかつ丼

関川村のにいがた地鶏の生産量は県内第1位で約30%を村内で生産しています。

一般に販売されているブロイラー種よりうま味成分が約2倍も含まれていて、保水性が高くジューシーでしっかりとした歯ごたえのおいしい鶏肉です。

## 《今月のご紹介》

早坂 ノエミ さん(深沢)

### 材料 (1人分)

- ・コシヒカリ新米 半合
- ・にいがた地鶏のささみ 2本(70g)
- ・たまねぎ 1/4個 ・プレーンヨーグルト 大さじ1
- ・塩 0.7g ・こしょう 少々 ・米粉 適量
- ・卵 適量 ・パン粉 適量 ・揚げ油 適量
- ・大根 50g ・しょうゆ 9g ・みりん 4.5g
- ・砂糖 0.8g ・青じそ 1枚半

### 作り方

米は洗って30分程度浸水させ、炊飯器で炊く。  
 鶏ささみは肉たたきでたたいて伸ばし、半分はたまねぎのすりおろしにつけ、半分はヨーグルトにつける。  
 (どちらもできるだけ長い時間つけると、やわらかくなりおいしくなる)しばらくつけたら塩、こしょうをふる。  
 米粉、溶き卵、パン粉の順につけて170度の揚げ油でからっと揚げる。揚げたら油をきっておく。  
 大根はおろして汁ごと鍋に入れ、しょうゆ、みりん、砂糖も入れて火にかけてひと煮する。  
 どんぶりにご飯を盛り、ささみのカツをのせてのたれをかける。  
 せん切りにした青じそを飾ってできあがり。

## せきかわ文芸

### 短歌

齢にか過ぎ行く月日の早かりし

須貝 恵美

遠き日偲び若き日何処

(高田)

紅葉狩り大石山にダムの色

佐藤 庄七

今を盛りと人は集いり

(愛広苑)

無造作に伸びるすすき穂風まかせ

小池 啓子

摩く姿に心移して

(下関)

頭ふりリズムとる児の眼とあえば

渡辺千恵子

いつしか吾も園児のひとり

(上関)

訪ね来し上杉城主の奨励を

山口 藤枝

今に伝えるウコギの垣根(米沢にて)

(辰田新)





八・二八水害の記録「天災の  
あらし」を著した近研三さんは  
大正十二年三月八日、関川村上  
関に近伝吉の四男として生まれ  
長じて関川信用組合販売購買  
利用組合勤務を経て、昭和十八  
年十月関谷村書記に任命された。

# 近・現代 関川郷の人びと

執筆：佐藤貞治（「せきかわ歴史とみちの館」館長）

近 研 三  
(上関在住)

昭和二十五年二十七歳で税務課長に就任したのをはじめ、昭和三十四年民生課長（三十五年病院事務局長兼任。三十六年住民課長も兼任）。昭和三十六年十月福祉課長を歴任。昭和三十九年第十九回国体が開催され、関川村は山岳競技会場となり、国体準備室長をつとめた。国体終了後の昭和三十九年十月企画課長、昭和四十二年一月総務課長を歴任。この年の八月二十八日未曾有の大水害に遭遇する。昭和五十一年産業課長に就き、昭和五十三年十月勤続三十五年をつとめ退職。終始村の要職をつとめ関川村の発展に尽くした功績は大きい。

昭和四十二年八月二十八日の記録的な集中豪雨は関川村を一夜にして壊滅の状態に陥れた。三十四名の尊い生命を奪った濁流は家を流し、耕地を荒廃させ、道路・橋梁をはじめあらゆる施設に荒れ狂って、被害総額一七七億円を超えるまれに見る大惨事となった。

当時、村の災害対策本部の総務責任者として救援活動にかかわった総務課長近研三さんは災害の発生から復旧着手までを克明に記録した「八・二八水害の記録 天災のあらし」を平成七年に出版した。災害の発生、ひたすら救援を待つ、被害、救援、復旧への道、遺体搜索と合同慰霊祭の六部構成で

自分の記録資料をもとに詳細に述べている。まことに貴重な文献である。特に第一部では十三時五十分対策本部が設置されてから二十二時五十分通信途絶して、村内の情勢掌握不能となるまでの様子を筆者は状況が刻々変化する中で走らせたメモをもとに記述している。そして役場職員、村消防団、自衛隊、県警は、その時どう動いたか克明に今日に伝えてくれる。

激甚災害の指定をうけ、かつてない大規模な災害復旧により、新しく生まれ変わった村の姿に、過去の出来ことは、とかくかすみのように薄れがちになり、やがて世代の移り変りと共に忘れ去られるものであると筆者は警鐘を鳴らしている。

この書は濁流に飲みこまれていった人々への痛哭の書であると同時に今後の防災にとつて大切なことは何かを示唆してくれる貴重な文献である。近研三さんの功績はまことに大きい。

昭和四十四年一月全国町村会長表彰を受賞。

著書  
・八・二八水害の記録  
「天災のあらし」  
・妻を悼む  
・人生つきすみの記  
・米寿に想ひ  
・先祖代々の記録  
・近家の系図

先祖  
孫三郎 乙次郎 広吉 研三  
四代  
祐治

## せきかわ文芸

### 関川俳句の会作品

児は巢立ち明月もはや忘れ居て

渡辺しづい

啄木鳥に一心不乱を教えられ

渡辺しづい

「蒼茫」を読んでしのびぬ秋の夜

渋谷 くに

(蒼茫は森澄雄の句集)

濃く淡く遠山わけて秋深む

渋谷 くに

赤飯に菊なます添え村祭

南 セツ

乙女等の動きたおやか風の盆

南 セツ

秋晴れや結婚式の稚児の舞

青木 慶一

ひらひらと睦み合いつつ秋の蝶

青木 慶一

せきかわ川柳会作品「遠い」「険しい」

遠い日の竹馬連想ハイヒール

渡辺しづい

登山好き雪山眺む車椅子

佐藤 ノブ

玉音も昭和も褪せて遠くなる

平田 千恵

アルバムが遠い昔を語り出す

南 セツ

遠い友インターネットで用済ませ

本間 イミ